

川崎医療福祉学会 第1回 研究集会プログラム

平成3年12月18日

1. 盲老人の保健医療福祉ニーズ
— 国際盲老人大会より —

医療福祉学科 小田 憲三

2. 学生相談を通してみた臨床心理的問題

臨床心理学科 島田 修 保野 孝弘

3. 1円が1ヶ月で1億円に！

医療情報学科 水本 久夫

4. 複合的画像診断法の神経眼科領域への応用

感覚矯正学科（視能矯正専攻） 川島 幸夫 深井小久子 早川 友恵

5. 高水素イオン及び高カルシウムイオン下における
コルチ器支持細胞ギャップジャンク
ションの変化

感覚矯正学科（言語聴覚専攻） 佐藤 幸弘

6. いわゆる運動不足病のスクリーニングを目
的とした容積脈波波形の検討

健康体育学科 小野寺 昇 宮地 元彦

7. 小児腎疾患の蛋白所要量に関する検討
— ネフローゼ症候群 —

臨床栄養学科 寺本 房子 小林嘉一郎 守田 哲朗

盲老人の保健医療福祉ニーズ — 国際盲老人大会より —

医療福祉学科 小田 憲三

世界で最初の国際盲老人大会が、1991年10月に京都、奈良を会場に開催され、14ヵ国が参加した。そこで討議された内容は、(1)盲老人は視覚障害者か虚弱老人か、という概念性、(2)各国ともに盲老人の量、質に関する客観的データ不

足の状況にあること、(3)人口増加にともなう盲人の増加と加齢、中途失明者の増加、高齢期の発病と盲老人の増加傾向、(4)盲老人の重介護化と保健・医療・福祉ニーズの複合化と重度化、(5)女性の占める割合の増加、などであった。

学生相談を通してみた臨床心理的問題

臨床心理学科 島田 修 保野 孝弘

わが学生相談室も学生の精神的健康の増進を計るとともに、精神疾患の好発年齢期にある学

生の発病の予防を目ざし、設置されている。臨床心理学科初年度入学生のうち10名（男6，女

4) が自発的に相談に来室した。我々が対象とした10例中9例までは心理的成熟過程に伴う不安により、様々な不適応行動や精神症状をみせ

ている。精神的な健康の予兆として、1週間に近い不眠、1ヵ月以上の無届欠席などが有効である事を確かめた。

1円が1ヶ月で1億円に!

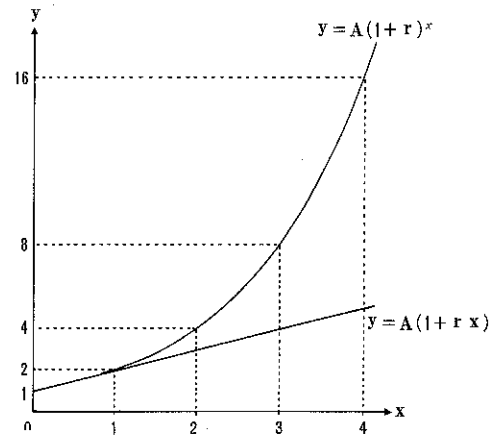
医療情報学科 水本 久夫

一般に、 A を初期の量、 r を年間の増加率として、 x 年後の量が、 $y = A(1+r)^x$ で表される法則にしたがって増加する量は、つぎの2つの魔性をもっている。

1. 1年間の増加は Ar である。ここで1つの錯覚をおこす。すなわち、1年間の増加が Ar なら、 x 年間の増加は $Ar \times x$ であろうと、しかし、現実には右図のように、格段の相異となって現れる。

2. ある期間 $x = x_0$ で、もとの量 A の2倍になれば、あとは、 x_0 年ごとに倍々になるという先程のたとえ話が、確実にくり返される。すなわち、 $A(1+r)^{x_0} = 2A$ ならば、 $A(1+r)^{2x_0} = 4A$ 、 $A(1+r)^{3x_0} = 8A$ 、……。

さて、ここで申し上げたいことは、われわれをとりまく生活環境の中で、上に述べた法則にしたがっているものが多いということであり、この法則にしたがうものには注意が必要であるということである。例えば、人口問題、車の増加、エネルギーの消費量、物価上昇、環境汚染



の拡大、病原菌（エイズなど）や害虫の繁殖増加、などなど、これは大変だと気づいたときには、もう手遅れであったということのないように、十分に注意したいものである。

複合的画像診断法の神経眼科領域への応用

感覚矯正学科（視能矯正専攻） 川島 幸夫 深井小久子 早川 友恵

われわれは中潜時視覚誘発反応の P100, N150, P200 成分の電位発生源について複合的画像診断法を用いて分析を行った。病的症例では、閃光刺激による P100, P200 成分の電位分布は示し一貫性を欠いていた。しかしそれらの ED は

常に健常側の後頭領域に存在し、そのベクトルの向きが lateralization の決定因子である事が判明した。複合的画像診断法は誘発反応の電位発生源の研究に多大な情報を提供してくれる有用な方法であると考ええる。

高水素イオン及び高カルシウムイオン下における コルチ器支持細胞ギャップジャンクションの変化

感覚矯正学科（言語聴覚専攻） 佐藤 幸弘

音刺激はリンパ液の振動となり、蓋膜と聴毛の間にずれを生じ有毛細胞の脱分極をおこす。そして、 K^+ と Ca^{2+} が細胞内へ流入し Ca^{2+} は Ca^{2+} -activated K channel も制御する。さらに、有毛細胞の興奮は transmitter により求心線維

へ伝達される。しかし、有毛細胞を支持している、コルチ器支持細胞内でのイオンの流れについては解明されていない点が多く、特にその gap junction の役割に注目して研究を継続中である。

いわゆる運動不足病のスクリーニングを 目的とした容積脈波波形の検討

指尖容積脈波は、血液循環動態をあらわす毛細血管血液含有量の時間的推移を反映する。一次または、二次微分してえられる速度脈波あるいは、加速度脈波は、その指標となりえる。運動不足による血管系の動態変化を指尖容積脈波

健康体育学科 小野寺 昇 宮地 元彦
を用いて明らかにした。電気回路シミュレート実験より指尖速度脈波々形は、動脈血液速度波形に反映することを示し、指数化により、スクリーニングに活用可能であることを示した。

小児腎疾患の蛋白所要量に関する検討

— ネフローゼ症候群 —

臨床栄養学科 寺本 房子 小林嘉一郎 守田 哲朗
ネフローゼ症候群患児について、摂取エネルギー量と蛋白質量が体重やNバランスに及ぼす影響を検討した。

血中アルブミン濃度とNバランスには正の相関があったが、一日あたりの体重増加とNバランスには相関はみられなかった。Nバランスは栄養状態を反映していたが、ステロイド療法中

のネフローゼ症候群では体重増加にはかかわっていなかったことから体重増加の主因は脂肪量の増加と考えられた。また微小変化群では、所要量以上の蛋白質の過剰分は尿中へ尿素として排泄され、蛋白質はほぼ所要量でよいと思われた。

【川崎医療福祉学会ニュース】

川崎医療福祉学会 第2回 研究集会プログラム

平成4年6月3日

1. 誤り訂正符号の通信への応用

医療情報学科 格和 勝利

2. 義務教育における福祉教育の実態調査及び 福祉教育カリキュラムの開発 — 経過報告 —

医療福祉学科 飯田 精一 小田 憲三 横山 桂子 野上 文夫 竹内 一夫 田口 豊郁

3. 視覚刺激に関する誘発磁界の研究

感覚矯正学科 川島 辛夫 深井小久子 早川 友恵 寺尾 章

4. 環境としての福祉

(内なる環境としての主体性)

医療福祉学科 関谷 真